福井の文化をきり拓く

ふっか～と

Vol.28

2008 春夏

「ふっか～と」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です

キーワードは「市民の力」

事業の見直し、そして再構築…これからの事業の行方

教育にアートを

Arts in Education～日本の音～

福井芸術・文化フォーラムの和楽器専門家派遣事業

フォーラムメイト座談会

連載 リ・レ・ー・ト・ー・ク

目に鮮やかな赤い絨毯！…でも…

（福井市文化会館の想い出 抄）

Report 見て歩き 9

“ドイツ、オーストリア旅行での芸術・文化的側面”

キーワードは「市民の力」

福井芸術・文化フォーラム（以下、フォーラム）は福井市文化会館を拠点として舞台芸術に関するさまざまな事業を企画・運営するNPO法人です。2000年の事業開始以来9年目を迎えますが、いま事業のあり方の見直しを行っています。それは、限られた予算でより公共性が高くより市民にとって有益な事業は何かを模索しているからです。

フォーラムが出来て以降、多様な企画が文化会館や市の公共施設で行われるようになってきましたが、まだまだ文化会館の正面扉は閉まっていることが多く、本当の意味で「市民にとって充分親しみやすい会館になった」とは言えない現状であることを常任理事一人一人が認識しています。

この現状を打開したいという思いから、手始めに、現在行われている共催事業を見直す作業をはじめました。共催事業*1はフォーラム設立当初から行われてきた事業で、市民が市の公共施設を使って行う事業費用のうち会場費の一部または全額を助成し、多くの事業主催者に喜ばれている事業でもあります。

見直し作業のために行った事業主催者へのアンケート*2でも「助成があるから事業をやれた」という意見が数多くありました。会場費助成の制度が一定の役割を果たしていることが、このアンケートから読み取れます。今後も何らかの形で助成制度を維持していくことは必要かもしれませんが、年々この制度を利用する事業主催者は減ってきています*3。しかもその事業主催者が固定化してきており、我々が期待する新規事業主催者の出現がなかなか得られないのが現状です。その理由は様々な要素が考えられるでしょうが、一つには市内には県立音楽堂、響のホール、AOSSA(アオッサ)と、近隣にハートピア春江、みくに文化未来館などがあって、それぞれの館で市民企画が行われるようになったということが考えられるでしょう。もう一つは、文化会館のホール収容規模が1,100人と極めて大きいことから文化会館での事業が敬遠されることが考えられます。

フォーラムの事業はこのほかに、国内外から優れた演者や演奏者を招聘して魅力的な舞台芸術の鑑賞機会を提供する事業と、フォーラムと市民が連携して企画し実行される市民参加型の事業がありますが、前者は限られた予算の中で実現できる公演数も限られます。後者は経費はそれほどかからないにしても手間が大いにかかります。「お金がなけ

***1 共催事業とは？**

市民の芸術文化企画を支援。「芸術文化の多様な可能性を触発し、地域の市民文化活動を活性化させること」を目的に実施しています。
企画は、書類申請のあと公開プレゼンテーションを経て、理事会にて審査し決定します。

●これまでの主な事業例

- 親と子のための映画会
  主催：ふくい子ども劇場　会場：福井市文化会館
- ダンスの祭典！D-1選手権
  主催：インターナショナルクラブ　会場：福井市文化会館
- ふくいニューイヤーコンサート
  主催：ニューイヤーコンサート実行委員会
  会場：福井市文化会館
- 県民能楽鑑賞会
  主催：武田謡楽会
  会場：福井能楽堂

ダンスの祭典！第8回D-1選手権（2007年）

***2 アンケート**

共催事業の見直しを検討するにあたりアンケートを実施しました（2007年11月）。
対象：福井芸術・文化フォーラムの団体会員またはこれまでの共催事業実施団体40団体
回答：11団体から回答が寄せられました

質問・回答の一部をご紹介します。

●共催事業を実施してよかった点

- 会場費を助成していただけて大変ありがたい
- 会場費減免
- 公の団体であるフォーラムとの共催事業ということで、一般の人にも理解を得やすく、事業への安心感を持ってもらえた

●よくなかった点

- プレゼンなど余分な手間が必要だったのでその点面倒
- 利用会場へ共催事業の周知が徹底されていない（利用可能な会場へ前もって共催事業の趣旨説明が伝達されていれば、使用交渉も円滑にいく）

事業の見直し、そして再構築…これからの事業の行方

れば、人が動く」というフォーラムの活動の鉄則も自ずと限界がありますので、共催事業の減少は文化会館での事業数の減少にも繋がってしまうことになります。

この状況を打開したいのですが、全体の事業予算が限られている現状では、経費を多く使う事業拡大は到底無理です。しかし、事業見直しの議論を始めて、その中で解決の糸口が少し見えてきました。

まずは周辺の会館との事業内容での住み分けです。これは徐々にと言うよりも必然的になされてきていますし、観客の年齢層や客層を絞った企画を実行していくことが必要でしょう。さらには、現在共催事業として行われている事業でも公益性が高いと判断されるものは主催者と相談しフォーラムの主催事業にしていく柔軟さも必要でしょう。市民から事業の企画提案をしてもらうというのも考えられます。

もう一つは、会館のキャパシティ(収容人数)と構造にとらわれない縦横無尽な企画内容です。これから議論し検討されることなのですが、フォーラムらしく事業企画をしていくキーワードは、「市民の力」を借りるということです。市民の力をどのように舞台芸術活動に結びつけていくのか。たとえば、文化会館のロビーや舞台のみを使った小公演やサロン的な集まり、文化講演会など、縦横無尽な企画概念の構築が今必要と言えます。最初から大きな企画をするのではなく、市民の力による小さな取り組みを徐々に育てて大きな企画にしていく発想こそが必要です。やがてはフォーラムの支援なしでそれぞれの市民団体が事業を遂行していくことになれば最良ですし、またそうなってほしいものです。

事業見直しの議論の中で、「事業企画を立案実行しながら、市民の事業企画力を育てていく」取り組みが必要であることが見えてきています。見直しの議論は曇天の空からほんの少しの日差しが漏れているような段階ですが、共催事業の形態も含め事業全体のあり方を見直し、近い将来、新しい事業形態の提案ができると思います。そのためにも市民の皆様の知恵と力をお貸しいただければと思います。

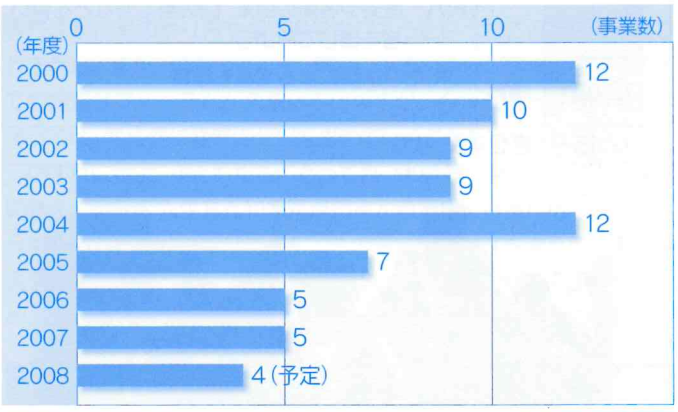
【前田耕一／NPO法人福井芸術・文化フォーラム常務理事・広報部長】

●もしこの制度がなくなったら、これまでの企画はどうなるか
- 団員からの持ち出しなどで収入を確保し同内容で企画を続ける
- 別の助成金を申請・獲得し同内容で企画を続ける

●これまでの会場費助成に限らず、新たな「支援」を得られる場合、どのような「支援」を希望するか
- 音響照明の研修会の実施
- チケットを大口枚数買い取ってほしい、観客を動員してほしい
- 広報の協力及び企画そのものへの支援(本当の意味での共催を)
- こちらが希望する出演者への交渉などの支援
- 福井市の会場のほかに、他の会場利用も支援範囲に入れてほしい
- 会場費助成で充分

●その他、フォーラムの事業について、意見・提言など
- フォーラムの活動が県内自治体の考え方を変えさせるような大きな動きとなるよう期待する
- 事業に共催しても結局団体が主、団体とフォーラムの交流(意見交換)がもう少しあってもよい
- いろんな形で市民の要求を掘り起こしながら芸術活動を

*3 共催事業数の推移



事業数の減少・固定化の理由としては、本文中に掲げたもののほか、
- 原則として、個人や団体の発表会、定期演奏会などの事業は申請対象外であるなど、応募条件が比較的厳しいこと
- 事業が継続するなかで当初の目的を達成し、応募しなくなる団体もあること

などが考えられる。

教育にアートを
Arts in Education～日本の音～ 福井芸術・文化フォーラムの和楽器専門家派遣事業

福井芸術・文化フォーラムでは、福井市内の小・中学校に和楽器の専門家を派遣し、日本の伝統楽器である箏（こと）・地唄三味線・尺八を子どもたちに楽しく体験したり習ったりしてもらう事業を2002年度から実施しています。和楽器について日常的に学校と専門家を結ぶこのような取り組みは全国的にもあまり例がありません。福井芸術・文化フォーラムの先駆的な取り組みをご紹介します。

きっかけは"プレ・イベント"

事業のきっかけとなったのは2000年に福井芸術・文化フォーラム（以下、フォーラム）が開催した邦楽公演「日本の音」のプレ・イベントでした。この公演に出演する地元の箏・尺八の専門家が、公演に先立って福井市内24の小・中学校に出向き、生演奏を聴かせたり、楽器に触れさせたりする体験事業を行い好評を得ました。

これを一過性のイベントで終わらせることなく日本の伝統音楽を次世代に継承していきたいという専門家側の思いと、会館での公演型の事業だけでなく地域や学校に芸術普及活動を進めていきたいというフォーラム側の思いが一致。さらに、2002年度の学習指導要領の改訂により中学校では3年間を通じて1種類以上の和楽器を体験することが付記されたことを受け福井市教育委員会が和楽器購入費を予算化したことも重なり、事業の実施が決まったのです。

本物の音と楽器に触れられる機会を子どもたちに

福井市教育委員会と中教研音楽部会の協力のもと、年度初めに学校からフォーラムへ派遣の申し込みが届くと、フォーラムは学校の規模や要望などをふまえ講師を調整。指導者講習会*を受講済のフォーラム登録講師を学校へと派遣します。

開かれた学校づくりの一環として学校が地域の人をゲストティーチャーとして招くことがあり、和楽器の体験も例外ではありません。フォーラムが派遣をコーディネートすることにより市内すべての学校に開かれた授業として、流派や謝礼の対応、日程調整のむずかしさなどの問題を少なくし、また必要に応じて継続的に学校の先生方をサポートし、ともに授業をつくることができます。毎年試行錯誤を重ねていますが、概ねこのような感じで事業を継続しています。

*指導者講習会…福井芸術・文化フォーラムでは2003年度と2005年度に安藤政輝氏（現在東京藝術大学教授）らを講師に迎え、和楽器専門家や音楽教員を対象とした講習会を実施。学校教育における和楽器の指導方法・奏法、学校教育と関わることの責任の重さを学びました。

授業例① 松本小学校

テーマ：日本の音に親しもう

2007年11月19日（月）　3～4校時（10:40～12:20）

6年4組28名　音楽担当：浅原顕子

講師　箏　：島嵜佐知恵・後藤佳奈・酒井裕美子
　　尺八：水井推山
楽器　箏　：7面（学校所有3、他校から3、講師から1）
　　尺八：15本（講師から）

10:40～	挨拶、講師紹介	
10:45～	鑑賞	曲紹介のあと講師による演奏を鑑賞 ♪新娘道成寺 ♪春の海
11:10～	体験	2グループにわかれ、箏と尺八をそれぞれ30分ずつ体験 箏……歴史、各部の名称、座り方、お爪の扱い方などを習い、♪さくらを弾いてみよう（2人で楽器1面を使用） 尺八…歴史や名前の由来、口の当て方などを習い、音を出してみよう
12:05～	鑑賞	ふたたび講師による演奏を鑑賞 ♪さくら ♪ジュピター
12:15～	感想発表、挨拶	

現場の声

浅原先生から

今年度は「日本の音楽今昔」という題材の中で、日本の楽器の歴史や音色などについて学習してきました。講師の先生から楽器の名前の由来や特徴を教えていただいたことで、子どもたちはより印象深く取り組み、充実した2時間となっていたように思います。学習後には、中学校へ進んで和楽器の学習をすることを楽しみにしている感想が多くきかれました。今後も福井芸術・文化フォーラムさんのこの活動が続いていくことを願っています。

児童の感想

演奏は聞いたことのあるものは少なかったけど、すごいなぁー、と思いました。体験では、ていねいに分かりやすく教えてくれて、短い時間だったけど音を出すことができました。尺八は少しならっただけで、かんたんに音が出ました。ぼくは音楽はとくいじゃないのにとびっくりしました。ことでは正座はとてもつらかったけど楽しくおぼえることができました。体験が終わってからの演奏は、はじめより「あんなに難しいんだ」とちがう感じで聞いていました。ぼくは音楽で楽しかったと思えることはなかなかないので、今日の体験ができて良かったです。

※松本小学校では、同内容で他の日にも授業を行い、4日間で6年生4クラス計114名の児童が受講しました

授業例② 鷹巣中学校

テーマ：和楽器の基本を学び、目標を持って曲を仕上げよう

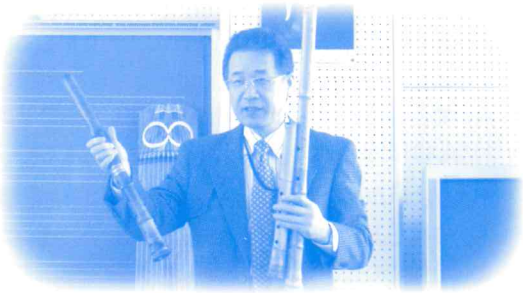
2007年10月19日～11月16日（毎週金曜日・全5回）

1年生25名　音楽担当：五十嵐有子

講師　箏：酒井みゆき・小原智子／尺八：水井推山

楽器　箏：14面（学校所有）

10/19	①	箏の歴史、各部の名称・構造についての説明、座り方、基本的な奏法の説明のあと、♪さくらの楽譜を使い音を出してみる
10/26	②	・先週の復習で確認しながら、楽譜の本手（主旋律）の方を全員最後まで弾いてみる ・替手（副旋律）に興味のある子を募り合奏に挑戦
11/2	③	・押し手（奏法のひとつ）を説明し、ひとりずつ確認 ・授業最終日の発表会に向けてグループ分けをし少人数で弾く練習も
11/9	④	・指の使い方をひとりずつ確認 ・次週の発表会を意識しながら実際に演奏してみる ・ひとりひとりがきちんと音を出して弾くことの大切さを指導
11/16	⑤	・生徒発表会：♪さくらを演奏　練習の成果を披露 ・講師による演奏の鑑賞会：尺八のレクチャーを受けたあと、箏・尺八の合奏を鑑賞（♪春の海　♪鷹　♪千の風になって　♪さくら）



現場の声

五十嵐先生から

生徒たちは箏に大変興味を持ったようで、授業の後には生活ノートに箏の感想を書いていました。もう少し時間が取れたら違う曲にも挑戦させたかったのですが、今は5時間で精一杯です。生徒25人に対して講師が2人来てくださるのは大変贅沢な気がしますが、細かいところまで目が行き届くので本当にありがたいです。

酒井講師から

5回にわたって大体は予定していたとおりに授業を進めることができましたが、個人個人の指の形などに合った指導をすることの大変さを感じました。それといつも思いながらなかなか実現しないのですが、全日程を終えてから、生徒たちといろんな感想や意見を聞く話し合いの時間がもてると良いなあと思います。

派遣実績

2002年度からの6年間でのべ2700名の児童・生徒に日本の音を届けてきました。

年度	派遣校数				合計授業時間数	児童生徒数	講師数
	中学校	小学校	小中合同	合計			
2002	7	0	0	7	64	475	14
2003	2	0	1	3	49	238	10
2004	5	2	1	8	93	381	16
2005	4	2	0	6	111	346	13
2006	6	3	0	9	83	521	14
2007	4	10	1	15	70	781	14

伝統文化の未来へ――今後の課題・展望

一時は派遣依頼校の減少・固定化が見られたものの、近年ふたたび、和楽器必修ではない小学校や合併で新たに福井市となった周辺地域の学校も含め、依頼数が増加。魅力的な授業づくりを目指す現場の先生方にとって専門家による指導や演奏鑑賞の機会への期待は大きく、今後ますますそのニーズは高まるものと予想されます。また、伝統芸能の継承に危機感を持つ専門家の方々は、子どもへの指導に対する熱意もあり、学校の先生方の良きサポーター役としての指導が期待できます。

しかしまだまだ課題も残されています。現段階では指導方法に専門家個々の持ち味や違いがあるうえ、学校の先生方の和楽器の基礎知識や授業への取り組み方も様々であり、一様には指導できない状況にあります。そこで、たとえば研究授業を実施するなどして、学校の先生方と専門家が授業のやり方や指導案を学びあうといったことが必要かもしれません。また、現在のところ、講師の派遣や楽器の調達に要するすべての経費はフォーラムが負担していますが、今後派遣希望校の増加によっては、学校側に経費の分担を求めていくことも考えられます。

いずれにせよ、子どもたちにとって良い和楽器体験となることを第一に考え、学校の先生方と和楽器専門家が意欲的に授業に取り組めるようすすめていかねばなりません。この事業の公共性を考えて、楽器購入やメンテナンス等の環境整備、あるいは事業そのものの予算化も含め、さらなる協力を行政に働きかけていくことも課題のひとつです。

ミニ知識 ご存知でしたか？　コト・琴・箏

「コト」を表す漢字によく"琴"が使われていますが、これは厳密には柱（じ）を使用しない七弦の楽器のことで、平安時代以降は衰微しました。一弦琴や二弦琴もこの仲間に入ります。
一般的に「コト」と呼ばれる十三弦の楽器が「箏」であり、柱を立てて演奏します。"箏"は常用漢字に含まれていないため、"琴"の字を当てられる場合が多いのですが、分類の上では異なった種類の楽器を指します。

フォーラムメイト座談会

「舞台を少しでも良い席で観たい！」「チケット発売情報を確実に知りたい」—そんなお客様のために、福井芸術・文化フォーラムでは、“フォーラムメイト（鑑賞友の会）”という会員システムをご用意しています。年会費1,500円で、チケットの先行予約や割引価格での購入が可能なほか、定期的に公演や催しものの情報を得られるなど、大変お得です。

フォーラムメイトの方にお集まりいただき、フォーラムメイトになって良かったと思うことや今後のご要望などについて、語っていただきました。

●出席　フォーラムメイト　Aさん
　　Nさん
　　Mさん
　　聞き手　福井芸術・文化フォーラム広報部会

—— フォーラムメイトになられたきっかけを教えてください。

A 聴きたい演奏会がありまして、会員（フォーラムメイト）だと割引になると知りすぐに入らせていただきました。綾戸智絵さんのコンサート（2003年）です。このコンサートがきっかけではじめて福井芸術・文化フォーラム（以下、フォーラム）のことを知りました。夫婦で2枚チケットを買うんですが、1回でほぼ年会費分の元が取れてしまうので、こんなに割引してもらっていいのかしら、と思いながら、それ以来ずっと会員になっています。

N わたしはだいぶ前に入ったのできっかけが思い出せないんですが（笑）、音楽や演劇が好きで、家が文化会館の近所ということもあり、いつも楽しませてもらっています。

M わたしはフォーラムを立ち上げの頃から知っていて、それで自然に入らせていただきました。

—— これまでの公演で特に思い出に残っているものは？

A そうですね、綾戸さんのコンサートはやはり行ってよかったですし、あとは『書く女』（2006年／二兎社公演）が思い出に残っています。小学生の子どもたちと一緒に観たのですが、いまでも話題にのぼるほどです。終演後に書いたアンケートで劇団のサイン入り色紙が当たったんですよ。忘れられない思い出になりました。

N いろんな公演を拝見しています。スカパラ・・というのかな？（2004年・2006年／東京スカパラダイスオーケストラ）ああいう音楽は若い人だけのものかと思っていたのですが、わたしも若い人たちの間に交じってノリノリで一緒に楽しませていただきました。

M わたしもスカパラ行きました。熱狂的なファンというわけではないのですが、フォーラムが企画したものなら行ってみようかなという気になるんですよね。一緒に踊りながら観てました（笑）。演劇もいままで福井ではあまり観られなかったような演目が観られたり。フォーラムメイトになって、いろんな舞台に出会える機会が増えました。

N 確かに今まで知らなかったいろんなジャンルの舞台が観られて嬉しいですよね。

—— なるほど。フォーラムメイトになってよかった点は？

M やはり先行予約ができるのがありがたいですね。

A 定期的に公演情報が送られてくるのが良いですね。希望ですが、子どもが入れるコンサートがもっと増えると良いなと思います。保育園や幼稚園児くらいの子どもを連れて入れるコンサートをお母さん方は求めていますが、実際にはなかなかありません。子どもが小さいうちから本物の音楽に触れさせたいですね。そうすれば、親子でフォーラムメイトに入りたいと思います。

M 少し話がそれるかもしれませんが、わたしがいま演劇に関心があるのは、高校生の頃、友人に連れられて観に行ったある劇団の公演がきっかけなんです。舞台がきらきらしていてとても気持ちがよかったのを、今でも覚えています。めぐりあわせかも知れませんが、そういう舞台に若いうちに出会えると幸せだなと思います。良い音とか良い舞台って、ちゃんとからだが覚えているんですよね。

N わたしは「出会い」がいっぱい欲しいから、何でも観に行きます（笑）。

—— よりよい作品をお届けしていけるようがんばります。

M あの頃観たような華やかな舞台に、ぜひまた出会いたいです（笑）。

N 文化会館での公演だけでなく、県外の劇場への観劇バスツアーもありますよね。これがまた楽しみなんです。今年もまたよい企画をお願いしますね。

A フォーラムの主催する公演はいつ来ても雰囲気があたたかくて、ほっとします。これからも楽しみにしています。

—— ありがとうございました。これからもフォーラムをよろしくお願いします。

もっと舞台を身近に、楽しく。
フォーラムメイトに加入しませんか？

2008年度フォーラムメイト入会のご案内

「舞台を少しでも良い席で観たい！」「チケット発売情報を確実に知りたい」——フォーラムメイトへのご加入をおすすめします。
◎2008年度の公演ラインナップについては本誌8ページまたは福井芸術・文化フォーラムのウェブサイトをご覧ください。

年会費

1,500円でいつでもご加入になれます。
（有効期限：2008年4月～2009年3月）

会員特典

早く **①先行予約** 一般発売前にチケットの予約・購入ができます。（お1人様2枚まで、フォーラム事務所での購入に限ります。）

お得に **②割引価格** チケットを会員価格でお求めになれます。（お1人様2枚まで。一部割引にならない公演もございます。公演当日は適用されません）。

確実に **③情報送付** 公演・催しの案内や文化誌「ふっか～と」をお届けします。

加入方法1

最寄りの郵便局窓口にある、青色の郵便払込取扱票に必要事項をご記入の上、年会費（1,500円）をお支払いいただくことで、いつでも加入できます。

- ●口座番号：00780-1-46870
- ●金額：1,500円
- ●加入者名：福井芸術・文化フォーラム
- ●お客様のお名前/ご住所/電話番号
- ●通信欄に「フォーラムメイト加入希望」

※払込手数料はお客様のご負担となります。ご了承ください。
※ご入金確認後、会員証をお送りいたします。
※加入申し込みと同時にチケット申し込みも可能です。
※加入時にいただいた個人情報は、福井芸術・文化フォーラムから会員の方への情報送付にのみ用います。個人情報を適切に管理し、第三者への提供・開示等は一切いたしません。

加入方法2

直接事務所にお越しいただいても、お手続きいただけます。

フロントスタッフ募集

公演当日のボランティアスタッフを募集しています。
チケットのもぎりや会場案内などお客様を気持ちよくお迎えするお仕事です。
あなたも一緒に活躍してみませんか？

- 活動日は本誌8ページを参考にしてください。事前に仕事内容の講習（受講無料）があります。
- 年齢、性別などは問いません。
- 軽食をご用意しています。また、当該公演を無料で観ることができます。

募集は随時行っています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。お待ちしています。

リ・レ・ー・ト・ー・ク

前回の書き手　福井県オーケストラ連盟理事長 吉村輝美さんからのご紹介です。

わたしたち、一番大切な音楽の仲間です。

目に鮮やかな赤い絨毯!…でも…（福井市文化会館の想い出 抄）

福井ブラスアカデミー指揮者　**山下秀雄**

私の福井市文化会館との係わりを文章にするということはその想い出が多すぎて…福井商業高校勤務時代の吹奏楽コンクール、福井ブラスアカデミーの定期演奏会、福井市交響楽団時代の数々のコンサート、来福したいろいろな種類のプロ達の鑑賞、そして元館長で恩師の故・武曾豊治先生にまつわる話…大変難しい作業です。そこで、私に重要な示唆を与えてくれた出来事を紹介してこれに代えたいと思います。

私は学生時代、東京飯田橋にある理工系の大学に通っていましたが、通学途中の市ヶ谷にあった当時のフジテレビ内にあった日本フィルの練習所に、しばしば大切な講義や実験をサボっておじゃましていました。それは敬愛する指揮者、小澤征爾さんの練習を見るためでした。その小澤さんが日本フィル解散（昭和47年）後にできた新日本フィルを率いてこの福井に演奏旅行に来ることになったのです。

すっかり音楽小僧に戻ってしまった私は、勝手知ったる文化会館の裏入口から小澤さんの練習を拝見すべく大ホールに滑り込みました。当日のメインのプログラムはチャイコフスキーの交響曲第4番でした。私を小澤さんに導いてくれたホルン奏者会田省三さん達の奏する冒頭の金管ファンファーレは心わくわくさせるものであり、1時間位続いた会場練習は私には十分満足できるものでした。通常ならこのままゲネプロが終わり、いざ本番へということになるのですが、小澤さんには何か納得できないことがあるようです。

この文化会館は設計当初の計画では音楽ホールとしての十分な残響が見込まれていたようですが、ご存じのように大ホール内には赤いふかふかの絨毯が敷き詰められ、演奏者泣かせの極めて残響音の少ないホールとなっています。

小澤さんは叫びました。「どうしよう！弦バスがこんなに響かないのではシンフォニーにならない！」開場の時間が迫って来ます。弦バスのパートをステージのあちこちに立たせて音を確認します。小澤さん自身も客席をかけずり巡っています。ステージマネジャーや楽団関係者、そして音楽事務所の面々の顔には焦りの色が浮かんできました。

弦バスパートを除くメンバーを解散させ、会場に観客を入場させた後も小澤さんはあきらめませんでした。そして遂にその時が来ました。ひな壇の最上段（ステージの一番奥）に弦バスを一列に並ばせて音を鳴らせた瞬間でした。『ブーン！！』小澤さんの立っているホールのど真ん中辺りに陣取っていた私の耳にも低音が空間の隅々にしみ渡るのが手に取るように判りました。

煌めくサウンド！ほとばしる音楽！当日の演奏会が充実したものになったのはいうまでもありません。私は感動でいっぱいでした。そしてこれは小澤さんの音や音楽をとことんまで追究する姿がもらたした当然の結果でした。

福井市文化会館は音楽のみならず、演劇、バレエ、ミュージカル、日本古典芸能などの発表の場として大変な役割を担ってきました。今後も私たちに大いなる感動を与えてくれる場所としてますます繁栄していって欲しいと願っています。

山下秀雄●やました　ひでお
昭和23年福井市生まれ。昭和49年より福井市交響楽団（現・福井交響楽団）に入団、Tuba奏者として活動。昭和53年、福井ブラスアカデミーの創設に関わり指揮者・運営部長・団長として活動を続けてきた。現在、武生工業高等学校にて理科（物理）の教員として教壇に立っている。福井県吹奏楽連盟特別会員、（社）福井県文化協議会代議員、福井ブラスアカデミー Tuba奏者・指揮者・理事、福井シニアアンサンブル指揮者。

●福井市文化会館にまつわるエピソードをテーマに、書き手の紹介でつながります。誰のどんな話が登場するか、次号もお楽しみに。

Report 見て歩き 9

“ドイツ、オーストリア旅行での芸術・文化的側面”

昨年5月に15日間のドイツ、オーストリア旅行をしました。欧州特許庁ウィーン支局での懇談、両国の観光産業事情調査等々、経済志向的な旅行でしたが、旅行業者を通さない自己企画なので、モーツァルトと母の各生家、ミュンヘンとウィーンの国立歌劇場、ザルツブルグのマリオネット劇場(写真は同所にて)と「サウンド・オブ・ミュージック」のハイライト地等々も訪れました。もっとも、旧版、改訂新版共に購読した『ヨーロッパ音楽旅行案内』(福原信夫氏著)を読み直したり、放送大学の特別講義「オペラを語る」(遠山一行講師)時のメモや本誌の関連バックナンバーをキャリーバッグに入れて現地の人との対話補助具にしてきました。

街中の散歩中にホールを見ると、白夜に近い緯度でもありますが、勤務帰りと見られる人々の午後7時頃の開場待ち長い列シーンなど、芸術、文化が市民生活に根付いていると感じ入りました。かつての王家の庇護に替わる、企業のメセナ活動事情や行政の関わり方についても若干のヒアリングが出来ました。

各施設などで収集してきた関連冊子、パンフレットには運営理念、年間スケジュール、自前劇団等々が記されてあり、鋭意分析中です。

【山下博／NPO法人福井芸術・文化フォーラム理事・広報部会】

2007年5月20日ザルツブルグ・マリオネットシアター前にて。『『魔笛』19時30分開演」の表記あり。

編集後記

◆企画を作るのも、推進するのも、変革するのも骨が折れます。茨の道の先にまた茨の道の気分です。しかし茨の道も慣れればお手の物。 (K・M)

◆バイクで「全国縦断落語武者修行ツアー」中の上方若手落語家がいる。昨秋の県内4カ所口演(福井市会場では本会々員も散見)では知人が窓口等々の縁もあり、マスコミ対応を務めた。事前予告記事などの他、かの「越山若水」欄(氏名入りは私もこれまで2回)にも掲載されて喜ばれた。皆さんの分もフィルターを通した上で協力させていただくのでどうぞ。 (H・Y)

◎今回の「ふっか～と」はいかがでしたか？ご意見・ご感想・ご要望など、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。

Program 福井芸術・文化フォーラム 2008年度おもな事業のご案内

第9回日本の民謡～うたとおどり～
6月22日(日)

3軒茶屋婦人会公演
『ウドンゲ』
7月29日(火)
作：赤堀雅秋
演出：G2 & 3軒茶屋婦人会
出演：篠井英介、深沢敦、大谷亮介

森山良子コンサート
9月6日(土)
出演：森山良子

地点公演
『ワーニャ伯父さん』
11月14日(金)
原作：アントン・チェーホフ
構成・演出：三浦基

うたおうみんなで！
青春の歌声喫茶
12月14日(日)

第7回芸文いこさ寄席
21年3月

コンドルズ
福井スペシャル公演(予定)
構成・映像・演出：近藤良平

このほかにも会館の舞台、ロビーを活用したさまざまな公演・催し等をお届けします

◎会場はいずれも福井市文化会館です。
◎情報は2008年3月現在のものです。日時、内容、公演タイトル等は変更になる場合があります。必ずチラシなどでお確かめください。
◎詳細はお問い合わせいただくか、福井芸術・文化フォーラムのウェブサイトをご覧ください。

入会のご案内

福井芸術・文化フォーラムは、文化のちからでふくいのまちづくりをすすめるアートNPO。福井市文化会館を拠点として、舞台芸術に関するさまざまな事業を企画・運営しています。

一緒に活動しませんか？あなたに合ったかかわり方があります。

[正会員(アートスタッフ)] あなたの思いや夢をカタチに
3通りのかかわり方
①会の運営を担う――部会や委員会に所属
②ひとつの事業の企画から実施まで――事業プロジェクトスタッフ
③気軽にちいさなお手伝い

[準会員] 資金面での支援協力、文化を育む応援団
・個人賛助会員　・法人賛助会員　・団体会員

[フォーラムメイト(鑑賞友の会)] もっと舞台を身近に、楽しく
・フォーラム主催公演のチケットを先行予約、優待割引
・公演・催しの案内、文化誌「ふっか～と」を送付
※詳しくは本誌7ページをご覧ください

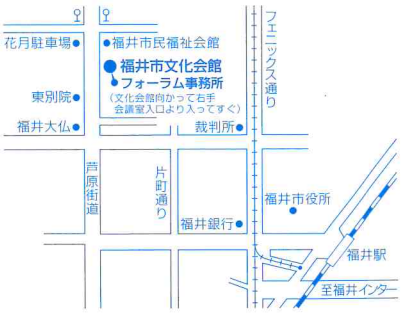
■会費＝年会費

正会員(アートスタッフ)		1口	5,000円
準会員	個人賛助会員	1口	5,000円
	法人賛助会員	1口	10,000円
	団体会員	1口	3,000円
フォーラムメイト(鑑賞友の会)			1,500円

すべてのお問い合わせは
福井芸術・文化フォーラム　電話 0776-23-6905
受付時間　月～金(祝日を除きます) 10:00～18:00

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています(2007年度法人賛助会員)

- セーレン株式会社
- 北陸労働金庫
- 島崎電器商会
- 財団法人福井県予防医学協会

次号2008秋冬号は2008年10月1日発行予定です

発行 NPO法人 福井芸術・文化フォーラム
910-0019 福井市春山2-7-1 福井市文化会館内
tel.0776-23-6905 fax.0776-23-7905
e-mail: geibun@geibun.info http://geibun.info/